フィリピン IT 視察ツアー
報告書

社団法人コンピュータソフトウェア協会

平成 21 年 8 月 4 日

【目次】

Ⅰ.視察メンバー　・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅱ.訪問先　・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ.日程　・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅳ.視察報告　・・・・・・・・・・・・・・　4

はじめに　（記：神田茂）

●Board Of Investment 投資委員会（BOI）　（記：佐藤秀晴）

●Philippine Software Industries Association（PSIA）　（記：芳賀紳）

●Ayala Systems Technology, Inc.　（記：呉本舜）

●University of the Philippines IT Training Center(UP-ITTC)　（記：若見和弘）

●UP-Ayalaland TechnoHub　（記：蛭間久季）

●Trend Micro Incorporated Trend Labs　（記：相馬純平）

●CEBU 投資促進センター（CIPC)　（記：山家俊夫）

●Kinse Systems Technology,Inc.）　（記：佐藤忠彰）

おわりに　（記：高部美紀子）

【UP-Ayalaland TechnoHub にて】

【マニラホテルにて】

Ⅰ．視察団メンバー

	氏名（敬称略）	会社名
団長	神田　茂	ASJ（株）
メンバー	佐藤　忠彰	ASJ（株）
メンバー	芳賀　紳	（株）インフィニテック
メンバー	呉本　舜	（株）インフィニテック
メンバー	相馬　純平	（株）ラグザイア
メンバー	若見　和弘	（株）エスディーエス
メンバー	蛭間　久季	（株）アークン
メンバー	佐藤　秀晴	（株）サクセス
メンバー	山家　俊夫	フィリッピン大使館
メンバー	遠西　俊洋	日本経済新聞（現地）
事務局	高部　美紀子	（社）コンピュータソフトウェア協会

Ⅱ．訪問先

日時	訪問先等	備考
7 月 15 日（水）	投資委員会（BOI）	Board of Investment
7 月 16 日（木）	フィリピンソフトウェア産業協会	PhilippineSoftware Industries Association
	Ayala Systems Technology. Inc.	
	フィリッピン大学 IT トレーニングセンター	UP-ITTC
	UP－Ayalaland TechnoHub	
	Trend Micro Incorporated Trend Labs	
7 月 17 日（金）	CEBU 投資促進センター	CIPC
	Kinse Systems Technology, Inc.	

Ⅲ. 日程

日	月 日 (曜)	発着／滞在地	時 間	交通機関	摘　　要	食事
1.	平成 21 年 7 月 15 日 （水）	成 田/マニラ 時差: 日本－1 時間	09:30-13:05 14:00-15:00 16:00-18:00 18:30-20:30	PR431 便 専用バス 専用バス 徒歩	フィリピンの首都マニラへ 入国審査を経てホテルへ **Board Of Investment 投資委員会（BOI）訪問** 歓迎夕食会(BOI) 「Fely J’s」 《ペニンシュラホテル泊》	機内 夕食
2.	7 月 16 日 （木）	マニラ滞在	09:00-10:00 10:30-12:00 12:00-13:00 14:00-14:40 15:00-15:30 16:00-17:30 18:00-20:00	専用バス 専用バス	**Philippine Software Industries Association（PSIA）訪問** **Ayala Systems Technology, Inc. 訪問** 昼食会（Ayala） **University of the Philippines IT Training Center(UP-ITTC) 訪問** **UP-Ayalaland TechnoHub 訪問** **Trend Micro Incorporated Trend Labs 訪問** 歓迎夕食会（Trend Micro） 《ペニンシュラホテル泊》	朝食 昼食 夕食
3.	7 月 17 日 （金）	マニラ滞在 マニラ/セブ	8:00-11:00 11:00-12:00 13:00-14:25 15:30-16:30 16:30-17:30 18:00-20:00	専用バス PR857 便 専用バス 専用バス	Hotel チェックアウト後市内観光 昼食後、空港へ移動 セブ島へ **CEBU 投資促進センター（CIPC)訪問** **Kinse Systems Technology,Inc.訪問** 歓迎夕食会(CIPC・Kinse)「Ching Palace」 《マリバゴ・ブルーウォータ泊》	朝食 (昼食) 夕食
4.	7 月 18 日 （土）	セブ滞在	フリー		朝食後、各自自由行動 ※オプショナルツアー 反省夕食会(Ayala) 《マリバゴ・ブルーウォータ泊》	朝食 夕食
5.	7 月 19 日 （日）	 セブ/成田	06:00-06:30 07:40-13:25	シャトルバス or タクシー PR434 便	Hotel チェックアウト後空港へ 成田へ	(朝食) 機内

<u>訪問先企業</u>

①Board Of Investment 投資委員会（BOI）　②Philippine Software Industries Association（PSIA）
③Ayala Systems Technology, Inc.（ASTI）
④University of the Philippines IT Training Center（UP-ITTC）
⑤UP-Ayalaland TechnoHub　⑥Trend Micro Incorporated Trend Labs
⑦CEBU 投資促進センター（CIPC）　⑧Kinse Systems Technology, Inc.

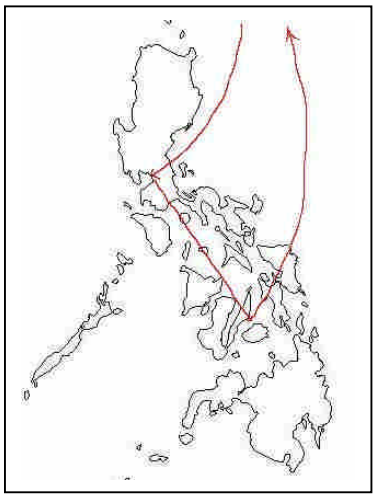
Ⅳ．視察報告

【はじめに】　団長：神田　茂　ASJ（株）

今回のフィリピン IT 視察は、その企画から実施まで、山あり谷あり。４月にフィリピンセミナーを開催した際は、50 名を越える盛況でしたが、その後、5 月に豚インフルエンザが発生し、視察団の募集時期と重なったため、一時は成立が危ぶまれる状態でした。

その後、大逆転、11 名の個性的メンバーが参加する事になりました。訪問先でも通り一遍の説明を聞くということではなく、次々と質問が飛び出し、大いに理解を深める事が出来ました。個別の報告は、次のページ以降に譲るとして、一言、メンバー全員から、「今回の視察は非常に得るものが多かった」との評価を得る事が出来ました。団長としてはうれしい限りです。

最後になりましたが、この視察の成功に尽力頂いた、CSAJ の事務局、フィリピン大使館、また、現地でお世話になった BOI（投資委員会）、CIPC（セブ投資促進センター），フィリッピンソフトウェア協会、UPITTC, Ayala Systems Technology, TrendMicro, Kinse 様に御礼申し上げます。



赤字がマニラでの主なルートです。下の扇形がマカティ市、エドサ通りを北上してケソン市へ。

【投資委員会（Board Of Investment ）】　佐藤秀晴　（株）サクセス

●日時：2009 年 7 月 15 日（水）16:00～18:00
●場所：マニラ　マカティ市
●出席者：Lucita P. Reyes 氏（局長）、Eries M. Cagatan 氏(担当官)、鈴木翔三氏（JapanDesk）

7 月 15 日成田発 9 時 30 分のフィリピン航空 431 便にてマニラ入り。定刻より 10～20 分程早く到着。入国審査、手荷物のピックアップ、税関も比較的スムーズに進み、専用バスにてホテル（ペニンシュラ）へ。英国風の豪華なホテルであるが、セキュリティの厳しさにはびっくり。30 分後にロビー集合。ここで、先にマニラ入りした人、別便でマニラ入りした人、別スケジュールの人など全員が顔を合わせた。
専用バスで 15 分ほどの所の古いビル内 BOI 来賓用の立派な会議室へと案内される。
レイス女史（Reyes,Executive Director　局長）による BOI の位置付け、フィリピン投資の優位性及び外資企業に対する優遇措置が力強く説明された。わかりやすい通訳をしてくれた方は日本デスクの鈴木さんだが、日本語の効率が英語に比べ良いとは云え、15 分の説明に 1 分の通訳は省略し過ぎの感もあったが・・・・。

1. BOI 位置け
   BOI はフィリピン貿易産業省の配下に有り、フィリピン政府の投資に関する国としてのリーディング窓口である。小さなもの、あるいは地方単位に色々数があるらしいが、まずは自分達を通して相談して欲しいと力説していた。
2. フィリピンの優位性
   ①　地政学的にアジアの中心に有り、日本からも近い
   ②　教育水準が高く、英語が公用語として使われている（グローバル・コミュニケーション）
   ③　人件費が比較的安い
   ④　社会的インフラが整備されている（電気、水道、インターネット等の通信網）
3. 外資系企業に対する優遇措置
   条件（輸出企業である事、“ PEZA ”と呼ばれる建物を含む経済特区に入居している事等々）を満たし、申請が通れば減税（4 年間は法人税、所得税の免税！！）措置が受けられる。
   ※特筆事項として、外資 100%でも条件によっては会社が起こせると云う事。
   （通常は資本金等に占める外資の占有率は、40%迄と法律で制限されている）

その後、今回ツアーに参加した日本側企業の自己紹介、質問等があったが、フィリピンに熱い想いがあるのか、どんどん話が盛り上がり（間に通訳が入る為）予定の時間を大幅に経過。途中で「後はディナーを取りながら……」という事になり中断、終会となった。
2 日目以降のエキサイティングな視察ツアーを予感させる熱い最初の訪問であった。

夕食は、BOI のご招待で、近くのフィリッピン料理のお店。途中から Elmer C. Hernandez 副大臣（次官）も参加、その陽気で気さくなお人柄にまたまたフィリッピンの魅力を見つけた。

【Philippine Software Industries Association（PSIA)】　芳賀　紳（株）インフィニテック

●日時：2009 年 7 月 16 日（木）9:00～10:00
●場所：マニラ　マカティ市
●出席者：マリア　クリステナ　コロネルベング氏（PSIA 会長)、安部氏（Japan 担当）
その他協会会員 11 社（後述）

1.フィリッピン IT 事情
コロネルベング会長からフィリピン IT 事情の説明があった。
①グローバルアウトソーシングで第３位（EverestGlobal 調べ）インド 37%、カナダ 27%、フィリピン 15%
②Gartner によるとフィリピン＞ベトナム　理由は言語スキル、勤勉さ、教育レベル。

③ グローバルアウトソーシング進出上位都市１位にセブ市。８位がマカティ市。(Tholons 調べ)
④ ソフトウエア企業は４００社。うちＰＳＩＡ会員が１４０社。
⑤上記取引額　ＵＳＡ４５%、日本２５%、ＥＵＲＯ２４%
⑥フィリピンＩＴ企業の特長は、
・スキルの高さ→PhilNITSFE（日本の情報処理資格と相互認証されている）
・グローバルプラクティス、経験と成熟度が他アジア諸国と異なる。(英語)
・コスト→中国と同等でインドより低い。　　など
⑦キャッチフレーズ「The　Global　Link　in　Your　Value Chain」
2. CSAJ としての今回の目的を説明
3. PSIA メンバー１１社によるプレゼンテーション
・AdvancedWorldSystems,Inc　→100%日系企業。組み込み、業務アプリ開発。
・AllianceSoftware,Inc　→アプリアウトソーシング開発。日本事務所あり。
・Geniisys　→オラクルＤＢ開発。オープンソースにも特化。
・ECCIGroup　→コンサルとｅラーニングソリューション。
・G2iX　→世界レベルのオープンソースソリューション。
・Imperium　→オープンソース、ネットワークなどの受託開発。
・IntelligentWavePhilippines　→バックオフィスシステム開発。
・J-SYS　Philippines　→日系企業。日揮から独立。業務アプリ。
・PointwestTechnologiesCorp.　→フィリピン資本最大の受託ＩＴサービス会社。
・SQLWizard,Inc　→フィリピン最初のオラクルパートナー。
・StratPoint　→モバイルアプリ受託開発。
4.所感
今回の訪問でフィリピンＩＴ企業が持つ３つアドバンテージを理解することができた。
すなわち　①勤勉さ　②英語力　③低コスト　である。
この理解は、今後の各社訪問時において大変参考となると思う。特に、本日最終の TrendMicro 社訪問時にこれらを活かしたビジネスモデルをぜひ聞きたいと思う。

【Ayala Systems Technology, Inc.】　呉本　舜　（株）インフィニテック

●日時：2009 年 7 月 16 日（木）10:40～12:00
●場所：マニラ　マカティ市　Ayala タワー・ワン 25F　本社内会議室
●出席者：アーウイン社長、バシリョ・ラスコ　ディレクター、レイモンド　マネージャー、
　　メルビン　エンジニア

1.Ayala Systems Technology,Inc.（ASTI）の 紹介＆ご挨拶（アーウイン・ロクシン社長の説明）
Ayala グループの IT 企業として、1988 年からスタートし、フィリピンの最も有力 SI ベンダーに成長した企業。また欧米市場を中心に、英語力と高品質を活かして、IT 関係のオフショア開発、アウトソーシング、保守メンテナンスなどのサービスを提供しています。これからは、日本を始め、アジア市場での拡大に力を入れており、CSAJ メンバーを通じて、日本の IT 企業とのコラボレーションを期待したいとのことです。

2.CSAJ 視察ツアーの目的＆ご挨拶　　インフィニテック　芳賀社長が CSAJ を代表して挨拶。

3. Ayala グループについてビデオ紹介
170 年以上の歴史を持ち、フィリピンで著名なスペイン系財閥総合企業である。不動産開発、金融、道路建設、水道事業、通信事業など社会インフラの近代化にも大きく貢献してきた。また、自動車販売、国際投資も盛んである。

4. ASTI のプレゼンテーション
ブリッジ SE　Melvin Lopez 氏によるアウトソーシング開発のトレンドの説明
技術と製品：オープンソース系開発が得意　　世界戦略：日本を含むアジア地域・米・欧に注力

5. ASTI についてビデオ紹介
欧米市場向けの IT、通信分野を中心に、高品質のオフショア開発、オンショア開発が目立ちます。開発言語を広くカバーしており、ホストコンピューティングから、オープン系、モバイル系までの開発実績があります。また、人件費と運用コストを抑えて、データセンター・コール-センター業務も拡大。
最後に、アーウイン社長、ASJ の神田さんもビデオに登場。日本市場へのアピールをしていました。

6. CSAJ メンバー自己紹介

7. Q&A
Q：得意とするオープンソース開発はどんなものですか？日本向けの成功事例がありますか？
A：RedHat をはじめ、Linux 中心です。実績について、NDA があるため公表できませんが、NEC 指紋認証など一部実績があります。
Q：1)金融危機によるフィリピン経済へのダメージはいかがですか？　2)海外向けの IT 関連アウトソーシング開発が中心と思いますが、日本向けのシェアはどのぐらいですか？
A：1）影響があるものの、さほど大きなダメージを受けていないようです。　2)詳細な統計データがあるので、後日メールで送付します。日本向けは約 3 割ですが、拡大傾向です。

訪問先の高層ビルは Ayala Tower One で、本社ビルとのこと。昼食は顧客との会食のために作られたメンバー制レストランで御馳走になった。豪雨の中、ビルのガラス窓からは周りの高層ビルやホテルが立ち並ぶ街並みを見ることができたが、これがマニラなのか？とふと不思議な思いがかすめた。

【University of the Philippines IT Training Center(UP-ITTC)】

若見和弘　（株）エスディーエス

●日時：2009 年 7 月 16 日（木）14:00～15:00
●場所：マニラ　ケソン市
●出席者：尾崎　裕司氏

マカティから北 15ｋｍのケソン市へは車で約１時間。市内を南北に走る幹線道路であるエドサ(EDSA)通りは思った以上にバスや、車で渋滞していました。ケソン市の象徴であるケソン・タワーが見えると直ぐ、緑の豊かなフィリピン大学（UP=University of the Philippines）の構内に入ります。この広大な一角に日本の技術援助として、「フィリピン IT 人材育成プロジェクト」である「UP-ITTC（フィリピン大学 IT 研修センター)」が有ります。

１．概要：

（1）日本政府が、フィリピンの IT 人材育成を目的として、フィリピン大学の協力の下、日本語教育と IT 教育を行っています。8 時から 17 時までのフルタイムで 1 年間。平均的な大学の授業の 2 倍の密度で熱心に行われています。日本語は JLPT3 級を目指し年間 400 時間、IT 事業はアプリケーション開発、組み込みソフト、ネットワークの 3 分野。

（2）このプロジェクトは日本の JICA（独立法人国際協力機構）による技術協力で、フィリピン大学は施設、講師を提供しています。

（3）対象者は、大学卒業生で、他の職業からの職種転換希望者が大半との事。選抜は厳しく、合格率は約 40%で、毎年 150 人が合格、その内約 80 人が入学。（授業料が 10 万ペソ＝20 万円と比較的高額であり、支払えなく辞退する合格者もいる様子）

（4）授業料、生活費を企業が援助する奨学金制度があり、これを利用して卒業生を確保する日系企業も多く、学校側としてもこうした企業を積極的に募集しています。

２．成果：

（1）昨年までの 4 年間で卒業生 215 名、その内、JLPT 合格者 135 名、FE 試験（基本情報処理技術者）合格者 52 名で、FE の合格率は日本と同等。この試験は日本との相互認定をするもので、経産省の主導によりアジア各国で行われています。合格者は日本での就業 VISA の取得が容易になるとの事。

（2）卒業生の約 85%が、日本及び日系企業に就職しています。

３．感想：

生徒たちは、熱心で真面目。授業料が比較的高いため、受講を諦めざるを得ないケースもあると聞いたが、もっと大々的に日系企業が活用できる可能性があると思われ、そのためには、CSAJ メンバーを始めとし、もっと PR をする必要が有ると強く感じた次第です。

【UP-Ayalaland TechnoHub】　蛭間　久季　（株）アークン

●日時：2009 年 7 月 16 日（木）15:15～15:30
●場所：マニラ　ケソン市

フィリッピン大学 IT トレーニングセンターでの議論が白熱し時間がオーバーしたため、TechnoHub では十分な視察ができなかった。したがって、本訪問については簡略的な概要説明となった。

UP-AyalaLand Techno Hub は Metro Manila の Quezon city に位置し、フィリピン大学とフィリピンの大財閥のひとつである Ayala グループによって開発されたテクノパークである。ここ、UP-AyalaLand Techno Hub の土地自体はフィリピン大学の所有であり、AyalaLand 社が開発をした。
パーク内は大凡１０棟のビルで構成され、それぞれ国際的にも有名企業である IBM、HSBC、MANULIFE FINANCIAL 等の企業が入居している。施設内には供用施設として多目的用会議室などもあり、設備も充実しているように見えた。
電気、通信、水道、等の社会インフラも整備されており日本のテクノパークと何ら遜色がなく、米国の西海岸のテクノパークをイメージさせる。
テクノパーク内にはオフィスエリアだけではなく、飲食エリア、フィットネス・ジム等も整備され、また近隣にはコンドミニアムの居住区もあり、まさに、仕事、食、住を満たすエリアとなっている。

【Trend Micro Incorporated Trend Labs】　相馬　純平　（株）ラグザイア

●日時：2009 年 7 月 16 日（木）16:00～18:00
●場所：マニラ　ケソン市　イーストウッド（ウイルス解析・サポートセンター）
●出席者：清水氏（品質管理責任者）、与那城氏（技術 Marketing スペシャリスト）、寺西氏（技術 Marketing スペシャリスト）、Pilao 氏（技術 Marketing 課長）、Alvarez 課長補佐）

1.トレンドマイクロとは

ウィルスバスターで世界的に有名な企業であるトレンドマイクロ社は本社が日本、開発はフィリピン、そして米国は最大のマーケットという企業である。ラボには 200 名から 300 名程の技術者が詰めており主にパターン解析と駆除をするためのソフトウェアを開発している。
フィリピンでは女性の地位は高く（強く?）、トレンドマイクロ社も例外ではない証しに、説明をしたのは 2 名とも女性であった。

2.フィリッピン全体について

最初にフィリピンの文化、国内的なビジネスの状況及び政治状況について説明があったが、この点については他の訪問先の説明とほぼ一致していた。フィリピン人は英語能力が高いため、国際的に幅広く仕事ができるという点を強調していた。また、昨今のフィリピンは海外からの投資が増えており、フィリピン企業に投資することがどれだけ優位性が高いかを説明していた。一方で政治が不安定であるためリスクも高いという点についても解説していた。

3.TrendLabs の場合

トレンドマイクロ社は、フィリピン人は英語と IT の教育の 2 点が優れているということで、開発拠点をフィリピンにおくと決めたようである。特に 90 年代以降、フィリピン政府も IT 教育へかなり力を入れたようである。が、本日訪問した、フィリピン大学 IT 研修センターでは日本政府の援助がないと IT の教育もままならないという報告があったばかりであるため、温度差を感じた。
賃金については ERP や組み込みアプリケーション技術者は給料が高く、ネットワーク関連や WEB 開発者の給料は IT 業界の平均給料よりも低く設定されている。ちなみに金額は、新卒学生で年収 36 万(約 72 万円)ペソという。ここの社員の年齢は 22 から 28 歳までが多く、それ以上の年齢の社員は IBM や富士通などの SIer からのヘッドハンティングを受け、移籍するケースも多いようだ。
拠点は北米とアジア、ヨーロッパに構え、システム安定稼働のサポートと、システムを利用するユーザーへのサポートを、時差を利用して 24 時間体制で行っている。特にお客様にサービスを提供するというマインドセットはサービス精神も豊富なフィリピン人が一番良いのではないかと考えているようだ。優秀な人材を確保できていることが 10 年に渡って成功してきた理由だそうである。トレンドマイクロ社は SIer ではなく、パッケージメーカーなので、技術者を中心としたオフィスは雰囲気も明るく、「エリートになればこういう素晴らしい環境で働ける」という象徴のような企業であった。

時間が押してしまったが、その後一通りオフィスを見学し、近くのイタリア料理店でごちそうになった。2 つの席に分かれての食事であったが、レストランを貸し切りにし、おいしく、ボリュームのある料理に、ビールとワインがたくさん運ばれていた。このチャージは日本地区代表の大三川さんに付けるとのことで、参加者全員で「大三川 CSAJ 常任理事　御馳走様でした」と声を出してお礼を述べました!!

【CEBU 投資促進センター（CIPC)】　山家俊夫　　フィリッピン大使館

●日時：2009 年 7 月 17 日（金）15:45～16:45
●場所：セブ　（ウオーターフロントホテル内）
●出席者： Joel Mari S.Yu(センター長)、Roberto A. Varquez(部長)、川澄　正春（アドバイザー）

1.CIPC とは

CIPC は 1994 年設立の非営利団体で、出資者はセブ市（80%）とセブの民間企業（20%）で、海外からセブへの企業誘致（直接投資）を促進し各種相談は無料で応じている。

2.海外からの企業

セブは観光地と言うイメージが強いが経済特区を中心に輸出志向の企業が 1,000 社ある。360 万人の労働人口を有し毎年 2 万人の大学卒業生を送り出している。

セブの日系大手企業は、ミツミ電機（電子部品製造）、太陽誘電（電子部品製造）、NEC テレコム（通信用組み込み）、エプソン（プリンターのソフトウエア開発）、タミヤ（プラモデル製造）、常石造船（貨物船の設計と造船）、PENTAX(カメラ)などであり、日系 IT 企業は上記 NEC,エプソン以外に Dash Engineering（三井造船のプラント設計）、サイバーテック（ソフト開発）、Sahara システム（ソフト開発）、アメリカは NCR、Lexmark、Convergys, フィリピン系は Alliance、N-Pax など多数ありこの 2 社は日本に事務所がある。

3.セブにおける立地の利点

①親日的である。（対日感情は良好）　②英語力が優れている。　③低コストである。（2003 年ジェトロの調査で日本の１/7 のコストでマニラより割安）　④インフラが整備されている。（光ファイバーによる通信）　⑤成田から直行便が週 5 便ある。（セブーマニラ間は毎日 21 便）　⑥日系企業の団体が機能している。（日本領事館/日本人会など）　⑦リゾート地である。（ダイビング、島巡り、スパ、etc.）⑧日本人子女への教育施設もある。（日本人補習校）　⑨日系 IT 企業が入っている IT パークや IT ビルなどは施設的にも充実している。

以上、セブが「フィリピンのセブ島」では無く、「太平洋のセブ島」として安全なイメージであることを強調していた。

4.Bayan Telecommunications 社の発表

最後にフィリピンの通信会社である上記の会社紹介があった。同社は国内に 30 万人の加入者を持つ電話会社。固定電話、携帯電話、インターネット・サービスを行っており東京にも支社がある。セブでオフィスを構える場合は、まずは同社のサービスを利用してほしいとのこと。

5.感想

私自身は何度か CIPC を訪問し、川澄氏の説明を聞いているが、今回初めて行かれた方はフィリピの小島で NEC、エプソン、その他日系企業が活躍し、日本人の IT 企業出身者が CIPC でプレゼンを行う事に驚かれたのではないかと思います。

【Kinse Systems Technology,Inc.】　佐藤忠彰　ASJ（株）

●日時：2009 年 7 月 17 日（金）17:00～18:00
●場所：セブ
●出席者：　デイパスピル　レイニア（理学博士・社長）、折原　洋（システムエンジニア）

1.会社概要：2007 年 12 月設立、資本金：300 万ペソ、従業員数：約 20 名
2.事業内容：ソフトウエアのアウトソーシング、SI、コンサルテイング、BPO
3.得意分野/開発実績
・Window 系開発：MS ｻｰﾊﾞ(OS/Web/DB), ASP.Net ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ言語、ﾌﾞﾗｳｻﾞ/Window ｱﾌﾟﾘ
・OSS 系開発：OS(Linux/Unix), Apache, MySQL, PHP/Java, WEB ｱﾌﾟﾘ
・業務ｱﾌﾟﾘ・ｿﾘｭｰｼｮﾝ開発⇒ホテル予約システム、オンライン売上管理システム
・組み込みシステム開発
・CMS/ウエブサイト構築⇒Kumpara63.com(価格ドットコムのフィリピン版)歴史：
4.OS/Web 取引先
NEC Telecom SW(セブ)、BUG Inc.（札幌のベンチャー）、NPAX　（セブ）、Japan Books Corp. 、サクセス（今回の参加メンバーである佐藤（秀）氏の会社）
5.レイニア社長の経歴
・文科省の後援を得て北海道大学に留学し超電導の研究で理学博士号を取得
・その後北大出身者が起業したベンチャー（BUG　Inc）でルータ等の開発に従事
・札幌には通算１０年以上滞在したが、フィリピンに戻り１年半前にキンセ・システムを設立
6.質疑応答
・レイニア社長に対して、高部事務局長より「当面 CSAJ の準会員として入会し、フィリピンに関心を持つ会員企業との情報・意見交換をしてはどうか？」との提案があった。
⇒本件は検討予定の「Phil 研究会」の一環としてフォローするのが妥当（私見）
・ルータ/ゲートウエイの開発経験に関する質問に対して、レイニア社長から「BUG 勤務時代に NTT 向けのルータ/ゲートウエイの開発に携わった経験があるので問題ない」との回答あり。
・「Kinse　Sys.」の社名の由来
⇒彼はフィリピンに戻ってからペプシ・コーラ販売の会社をテコンドーの仲間と設立した。その際の社名を Kinse（スペイン語で数字の 15 の事）とした。　それを冠に Sys 会社には Kinse Sys, 物流会社には Kinse Logistics 等拡大して行きたいとのこと。
7.感想
・技術者派遣（派遣先で塩漬となる危険大）に留まらず kumpara63.com の様な独自製品（価格コムのフィリピン版）を手掛ける等、将来の布石を打っている点は大いに評価できる。
・北大で理学博士号を取得し、日本とセブの状況を熟知しているレイニア社長が下請けに甘んじず良いパートナーを獲得する事で大きく成長する可能性を秘めていると感じた。

【おわりに】　　高部美紀子　（社）コンピュータソフトウェア協会

冒頭で団長の神田氏が書かれたように、ツアー自体の催行が危ぶまれた状況ではありましたが、一時は 14 名の参加予定があり、もしやフィリッピンに対して潜在的な期待を持っている IT 企業が意外に多いのではないかとも感じられました。中国との関係については、継続的にフォーラムなどを開催していますが、スポットとして昨年のインドに引き続き今年は、英語圏で日本との関係も深いフィリピンを選択いたしました。今回は準備の時から、訪問先との連絡などスムーズで、約束は守る、時間は正確、語学の問題とは別に Communication が上手くいく、などのよい面での印象を持っていました。

さて、7 月 15 日にマニラの空港に降り立ち、むっとした湿気の中で、どういう訳か「なつかしい」という気分を感じていました。冷房が強いバスでホテルに移動中、埃っぽい道路ではジプニーと呼ばれる小型バンを改造した乗り物に人が落ちんばかりに群がり、交通手段として利用されていました。また路地を覗くと、トライシクルと呼ばれる 6 人乗りのオートバイに荷台を横に付けた乗り物が舗装がされていない道をがたがたと走っていきます。乗り物は手軽に改造されて、商売の道具となっているようです。

ホテルに近づくと町並みは一変し、高層ビルばかりが続いています。道路も整備され、広く、ビジネスマンが高級車に乗り颯爽としている姿もありました。

今回、8 つの企業・団体を訪問しましたが、私として特に印象に残った場面は、ASTI での会話です。「ASTI の戦略は海外に出て行って外貨を稼ぐことである。国内市場はベンチャーに任せる。」スペイン系の大財閥。政治とは一線を引くというのが信条だそうですが、フィリピンという国を近代化させるために、多大な貢献を果たしてきたことは間違いないと思います。一方、セブのベンチャー企業の Kinse 訪問時、社長は日本の北大を出たエリートですが、「われわれは外貨を稼ぐ。我々が他のベンチャーの見本にならねば」と。日本のように、それなりの市場がある国とはだいぶ違うビジネス感覚を持っているのにはびっくりしました。

最後の Free の日にも参加者それぞれが新たな体験をしたようでが、ツアー全体が無事に終了しましたことをご報告いたします。

また、ご参加いただきました皆様には、この場をお借りし、お礼申し上げます。